

壊れゆく“若者たち”

File.69 デジタル症候群 ～動画時代の無関心

文 石井 通明 text by Michiaki Ishii

モバイルデバイスの普及により、動画時代が全盛を迎えています。いつでもどこでも動画を見られる時代になり、YouTubeだけではなくInstagramやTikTokのような写真や動画のみを楽しむアプリが人々の当たり前になってきました。

このことは長い文章を読むことを放棄し、より直感的なものを求めていく傾向を示しています。簡単でわかりやすく、というのはとても良いことです。動画によるわかりやすさが世間に広く浸透してしまくと、情報を得る側のリテラシーの低下につながるのではないかと危惧されます。

溢れる情報の中で自分の欲しいものだけが流れ込んできて、文章を読む力も低下して、自分から情報を取りに行く力も低下し、入ってきたものをただ受け入れるという日々により人々はますます無関心になります。無関心は全部の事象に影響します。当事者意識を持たなければ、全てが受け身のままになり、自分の身の回りに起こることですら無関心になっていきます。

現時点で政治に強い興味を持っていない若者は低下の一途をたどっています。



Profile

東京都大田区生まれ。
英国ウエールズ大学 MBA (経営管理修士)。
日本交渉学会会員。ハーバード流交渉学・消費者行動心理学・コンフリクトマネジメントを研究。日本コーネルセンター協会情報調査委員。
株式会社クロス取締役 COO。
長年コーネルセンター運営に携わり、人とのコミュニケーションについての研究を進めている。思いやりのコーネルセンターを展開。
beca1103-6420-2088
<http://www.beall.jp/>

総務省によれば、2019年7月に行われた第25回参議院議員通常選挙の年次別投票率では、20〜24歳が28・21%で最も低く、70〜74歳が66・52%で最も高くなっていました。これからの国を担う年齢層が政治に興味を持たず、利権を得ている高齢層が都合の良いように話を進めようという現在の日本の傾向は、おそらくこのまま続いていくでしょう。

日本は今、超高齢社会ですが、今の若者たちが中高年になった時、誰も明確な意見を持ってない社会が訪れ、中国や他国の経済圧力で日本が本場に支配されてしまう可能性があります。それらを含めて、日本に未来は無いといろいろなところで囁かれているのです。

しかし、このようなことを言葉にし

ても、到底伝わるものではありません。突然何かが変わるような簡単な話でもありません。今の日本の若者は動画で流れてくる内容に疑問を抱かず、面白ければ受け入れてしまうような状態にあります。この動画時代を上手に利用して、「簡単」「楽しい」だけではなく、若者が社会、政治にも目を向けるようになっていくことを望んでいます。

